

最大のボランティア活動

深谷市立深谷中学校 3年 佐々木 美沙

あの日、テレビで見た町の一変した光景が今も私は忘れられない。大量の土砂により、次々とのみ込まれていく家。むき出しになってしまった山々。今にもごろごろと転がり落ちてきそうな茶色くなった山肌が、そこにあった。しかし、私が目にした光景は、悲しいことばかりではなかった。皆の中心となって、情報をいち早く市民に伝達している自治体の方の姿。被災者宅の片付けや心の支えとなってくれているボランティアの姿。行方不明者の捜索や緊急交通路の整備をして下さっている警察。人命救助・救出を迅速にされている消防隊の姿。自治体と連携しながら様々な支援をして下さっている自衛隊の姿。誰もが朝から晩まで、雨の日も一生懸命だった。

人は一人では生きていけない。人はそこまで強くはないからだ。互いに支え合い、協力しあい、時に、励まし合い、声をかけ合いながら共存している。だからこそ、安心して暮らせるのだ。ということに私は改めて気づかされた。と同時に、学校で税について教わるまでは、こういった支援は全てボランティアで賄われているものだと思っていた。

こうした活動や支援は何より私達国民一人一人が法律でもある「納税の義務」をしっかりと果たしているからこそ受けられる恩恵なのだ。誰もが助けたい。助けてもらいたい。そう思っているに違いない。しかし、気持ちだけでは乗り越えられない困難もある。そこには莫大な資金、いわゆる財源の確保や支援が必要になってくるのだ。一人一人の小さな力も積もりに積もれば、偉大な力を発揮し、どんな困難も乗り越えられるのだ。皆が納めたお金が多くの人々を救う力。つまり、税金として生まれ変わるのだ。もし、このような財源がなかったら、救える命も救えないだろう。災害で壊れた道路は壊れたままで、多くの人々が大変な苦勞を強いられることになるだろう。家が壊れ住むところを失い悲しい思いをしてしまう人もでてきてしまうだろう。

私が今、こうして社会生活を何不自由なく送れていることは当たり前なことではない。納税者に感謝して一步一步大切に生きていこうと思う。そして、私が納税者となったときは「社会の一会員として」納税することに誇りを持って胸を張って生きて行こうと思う。

今、世界は国際金融危機、貧困、地球温暖化による環境問題、コロナ感染症など、大きな問題を抱えている。このグローバルな課題に対し、国際連帯税という、国際社会が協働して取り組むシステムが構築されようとしている。税金は世界の国々同士でも、お互いに助け合い、協力し合って、皆を繋げている。納税は多くの人を救い、多くの人々を支える最大のボランティア活動といえるのではないだろうか。

将来、私は一納税者として社会に貢献できる大人になろうと、心に誓うのである。